



成年ソフト女子、剣道男子準優勝 県勢、上位入賞相次ぐ

愛顔つなぐ えひめ国体

(第3種郵便物認可)

愛媛県を中心に開かれていた第七十二回国民体育大会「愛顔つなぐえひめ国体」は、大会四日目の三日、県勢は上位入賞が相次いだ。

ソフトボール成年女子と剣道成年男子が準優勝。山岳少年女子ボルダリングで三位と健闘した。

卓球は少年男子と成年男子が準決勝進出。バスケットボール成年男子は四日の決勝に挑む。



壁に登る倉菜々子選手(右)と石井未来選手
|| 愛媛県西条市の市西条西部体育館で

倉選手、石井選手 互いに刺激、3位

2人1組で競技する山岳少年女子のボルダリングで3位に入った倉菜々子選手(安城学園高)と石井未来選手(日進西高)。プレー歴もスタイルも異なる2人がタッグを組み、入賞を果たした。

大山史洋監督いわく「倉は体のパネを生かし、ダイナミックなプレーが得意。石井は次のホールド(突起物)を着実につかんでいくタイプ」。

倉選手は11歳でユース選手権出場を果たし、ジュニアオリンピック優勝経験もあるが近年はケガが重なり、伸び悩んでいた。

山岳少年女子ボルダリング

昨年、キャリア5年で力をつけ、他県にも名前がとどろくようになった石井選手と出会った。「菜々子に勝つ」と公言し、めきめき力をつけていく石井選手を見て、倉選手も刺激され、プレーが安定していった。

決勝では互いにルートを確認し、アドバイスを送りあった。設定された4種の壁のうち出場選手で唯一、倉選手が三つ目の壁まで完全登頂。石井選手は「うれしかったけど、自分が先に登りかけた」と語り、倉選手は「また来年も2人で国体に出られたら」と語った。(板倉陽佑)

競り負け連覇逃す

○…決勝で地元愛媛に1-4で競り負け、二連覇を逃したソフトボール成年女子。愛媛の選手が打席に入るたび歓声と太鼓が鳴り響く球場の熱気に、昨年の王者がのまれた。

日本代表四人を擁し、九月の全日本総合女子選手権で優勝したトヨタ自動車の選手らが中心で、優勝候補の筆頭だった。五回に同点に追い付いた後、途中交代の田内愛絵里投手(トヨタ自動車)が六回に勝ち越された。「勝たせてあげたかった」と福田五志監督(左)。田内投手は、地元フアンの声援が気になったとしながら「それでも勝たなければいけないかった。この経験を取り組む戦いにかけていきたい」と語った。